

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥408-1		
自己評価作成日	平成30年7月25日	評価結果市町村受理日	平成30年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000488-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境で地域の方との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ってもらい、また、日々の生活の中で生きがいを持ち続けてもらうことで楽しく心やすらかに過ごしていただくような空間づくりを提供できるように取り組んでいる。
また、医療法人社団福寿会としてグループホームの他に小規模多機能型居宅介護、特定施設入所者生活介護、短期入所生活介護、そして居宅介護支援など、各それぞれの施設と連携を取りながら、利用者様やご家族の方の希望に沿いながら個々の思いに適した総合的なサービスを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

池を取り巻く広い庭や木製のベランダ等、利用者がやすらげる空間があり、日々の暮らしが穏やかに営まれている。利用者のさりげない表情の変化を職員は見逃さず、寄り添うことで利用者の安心感につなげている。園児から中学生、ボランティア、地域の人や道行く人まで、多くの人と関わることで、利用者の笑顔を引き出している。食後には、歯科衛生士である職員を中心に口腔ケアを行い、食を大切に、美味しく食べる楽しみが衰えないよう支援している。また、職員は生死についても学び、重度化や看取りの段階での対応では、常に利用者に優しく、見守る姿勢で行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見守ります。見逃しません。笑顔を引き出します。の理念を職員が共有して、穏やかに過ごしていただけるように実践している	職員一人ひとりが利用者の見守りを意識し、利用者の変化を見逃すことなく、常に寄り添う介護で笑顔を引き出すなど、理念が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校の職場体験の受入や、園児のお遊戯、地域のボランティアなど、受け入れをして地域との交流に努めている。	園児・小中学生との交流は、時として、利用者が家族を思い出したり、地域ボランティアの来訪時は、非日常性を感じる特別な時間になることもある。利用者の笑顔を引き出すために、地域と様々な関わりを持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会や研修などに参加している。また、研修等の講師にグループホームの実践経験を活かしている職員もいる。地域の方に相談等あれば説明して理解していただけるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での話し合いは、ケア会議や申し送り職員に伝え、サービスの向上に努めている。	運営推進会議では、利用者の現状報告や運営に関する要望等を聞いている。会議の司会・進行は地域の自治会長がつとめ、出席者には発言タイムを設けている。管理者と参加者は、本音で語り合いながら意見交換し、利用者サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや高齢福祉課など相談しながら取り組んでいる。また、市役所より介護相談員が見えたときには、利用者様との会話の内容など聞いて意見交換している。	定期的に介護相談員が訪問している。運営上の課題や制度改定に伴う事業所の対応等、市の担当者に相談しながら、サービスの質の向上をめざして連携し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束を学び知識をもち拘束しないケアを務めている。また、4点柵やベルト使用を検討する場合はケアマネや責任者と職員とケア会議等で話し合い相談している。	身体拘束をしないケアの実践について、ケア会議と運営推進会議で議題にし、具体的な事例を挙げて、拘束を回避するための工夫を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けた職員は苑での講習会を開き、職員全員が虐待について知識を持てるように学ぶ機会を作っている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されていた方が過去に入所して見えたので、今後このような知識が必要になってくると思うので、勉強会等があれば参加したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にケアマネより十分な説明をしている。また、契約時は施設見学などしていただき安心をしていただけるように説得して理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見、ご要望を伺い、管理者やケアマネに報告して相談し、個々の対応を職員全員が把握するように申し送りノートなどに記録して対応している。	普段の面会時や、夏祭りの際に開催している家族会は、家族の意見や要望を聞く機会としている。出された意見は職員間で共有し、利用者のための利益を最大限に考慮した対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で運営や改善策の意見は、代表者や責任者に伝え反映されている。	職員間は、経験年数に関係なく、アットホームな雰囲気があり、風通しの良い関係で自由に意見が言える環境ができています。代表者や責任者が職員の意見を聞き、運営に反映させている。人材育成にも余念がない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加ができる機会があり、職員の向上心をもって働けるような職場環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の情報を常に職員に提供し、サポートをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や講習などで同業者との交流のための講演会などに参加してそれぞれの情報を交換し、サービス向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りの情報収集に努め、ご家族様のニーズに沿うようにしている。また、本人様が困っていることや不安なこと等、日常会話の中で聞きだし安心して生活していただけるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はなるべく家族様に訪問していただきお互いに信頼関係ができるように努めている。また、ご家族様のは明るく挨拶をして、困っていることや不安なことは耳を傾けるように対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にケアマネより十分な説明をしている。また、契約時は施設見学などしていただき納得と安心をしていただけるように説得して理解していただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所時にお話を伺うことで何が必要か考え対応している。また、その時の状況を見てサービスを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様のお便りを出して本人様の苑での生活状況をお知らせしている。さらにご家族様にしかできないケアもあるので協力していただき連絡を取り合いながら時には外出、外泊など家族とのつながりを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の方が来苑しやすい環境をつくり、以前と変わらない関係を作っている。	自治会役員や地域の電気店、八百屋、美容室等の人たちが気軽に出入りし、馴染みの関係継続が自然に出来ている。夏祭りや会議、ボランティアの受入れなど、地域の人を訪れる機会も多く、新しい出会いもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで利用者様同士と一緒に過ごしていただき時には和やかに、時には認知症の症状によりトラブルがある場合は職員が間に入り良い関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退所された利用者様やご家族様の対しても以前と変わらない関係を保っている。入院された利用者様は、お見舞いに行きご家族に対して相談、支援をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から聞いた思いを責任者に伝え、家族の方からの情報もケアマネを中心に職員が把握し、一人ひとり意向に沿えるように努めている	利用者の思いを書き留める「意向ノート」がある。職員は、記録の内容を共有しながら、共に、えんどう豆のスジとりや炊き出し、経を唱えるなど、利用者の思いや意向、やりたい事を実現させ、笑顔を引き出している。	十分な医療支援が行われているが、重度化により、行動範囲が限られている利用者の思いを、さらに支援できるよう、地域の協力者確保に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境の情報をご本人から聞き把握している。また、ご家族との信頼関係やご本人とのコミュニケーションを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護職員が常に隣接している医院と連携を取り利用者様の健康状態を把握して、全職員が申し送りやケア会議で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の話聞き、また現場の意見も重視し思いが反映できるようにケアマネと連携しながら介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行っている。	介護計画は、意向ノートを参考にしながら、職員間で話し合い、家族の思いを加味して作成している。利用者が、日々穏やかに安定した生活を送れるよう、モニタリングを行い、利用者と家族の安心感につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をすることでケアの見直し、申し送りで情報を共有している。また、月に一度のケア会議でも職員が意見を出し合いながら支援している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの枠にとらわれないサービスの提供をしている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方など来て頂いたり、地域の園児のお遊戯や馴染みの美容院や買い物、遠足等、様々な外出支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は定期的に行われている。他の医療機関に受診をする場合、家族の方の付添いができない場合は、職員が付き添うように支援している	利用者や家族が納得し、かかりつけ医を選択している。診察時だけでなく、日々の生活状況も把握し、健康管理を担っている医師の存在は、利用者の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護で気が付いたことは看護師に報告し指示を受けている。申し送りやその都度職員が医院に連絡して主治医の指示を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人ご家族の承諾を得て基本情報や医療に関する情報提供を行っている。不明な点があれば病院に行き、関係者に話を伺うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した対応を家族に確認しその意見を尊重している。また、利用者様の状態は主治医から看護師、責任者、ケアマネに報告し家族と連携が取れている。	入居時に重度化や看取りについて説明をしている。医療チームと看取りチームの体制が整いつつあり、法人全体で連携体制が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないがマニュアルがあるので、実践に対応できるように心がけている 状況に合わせて医師や看護師の指示をもらい対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を実施している。地域の自治会も参加していただき、消防署と連携した訓練を職員全員参加で確認してもらうようにしている	災害訓練は、消防署や自治会の協力を得ながら実施している。地域と事業所メンバーとの区別が出来るよう名札を付け、それぞれの役割分担を決め、連携しながら訓練を行っている。炊き出しの訓練や、公共の避難所への移動も行い、課題も確認できている。	公共の避難場所で、エレベーター使用の際、時間がかかるという課題もあったが、待機場所で、地域住民とのつながりもでき、利点と捉え、今後も相互の協力体制強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、声掛けには丁寧な言葉遣いに気を付け、目上のかたという気持ちをもつように接している。	認知症であっても、常に、利用者一人ひとりの人権を尊重し、誇りを傷つけない対応に努め、支援していく姿勢は、代表者が職員教育で徹底させている。	人権尊重の姿勢が、家族や地域の人に広がるよう、人が集まる機会を利用して、認知症についての知識や職員の経験を発信されることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちや思いを表現できる場を作り、自己決定ができるように支援している。日常会話や表現で接することが大切でその意味でのコミュニケーションや観察をするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしさを尊重し希望を聞きながら日々楽しく生活していただけるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髭剃り、散髪など身だしなみに気を付けてその人の好みや希望にそった支援をしている。また、定期的に美容院に行ったりしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、野菜の下ごしらえ等、できることはしていただいている。また、食事形態は、個々に合わせて提供している。	利用者が食事を楽しみにし、その美味しさに満足している。食事形態や量は利用者の状態に合わせて、食事時間も利用者のペースで支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、調理師と共に利用者の状態に合わせて支援している。また、看護師、栄養士の指示を受け食事量、形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを習慣にしている。自分でできるかたはやっていただいている。歯科衛生士の職員からのアドバイスを得ながら利用者に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科医院の訪問による指導も実施している。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄がしていただけるように声掛けをして、自立支援を行っている。	紙パンツやおむつ使用の利用者も、出来る限り、トイレでの排泄を基本にして支援している。利用者の排泄リズムを把握して声掛けをし、トイレまで誘導を行い、上手く排泄ができるように手助けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時水分をとっていただいたり、フロアを歩いて運動していただいたり個々にあった運動をしている。特に困難な方は排泄パターンを把握し食事量などチェックして栄養士の指示をもらいながら便秘にならないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は曜日によって決まっているが、健康状態や気分に応じて入浴日を変更したりと臨機応変に対応している。	入浴日は変更可能で、利用者の状態とその日の気持ちに配慮しながら、柔軟に対応している。また、ゆっくりと安心して入浴を楽しめるよう、機械浴でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に一時間ほど休んでいただき一人ひとりに合わせた生活習慣を知って安心していただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬を理解してまた、服薬の症状の変化に注意し看護師と連携を取りながら間違えないように常に確認している。また、医師の指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物をたたんだり、一人ひとりに合った仕事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ苑庭にでて、歌を歌ったり外気浴を行っている。また、ご家族の方と外出、外泊など、のし支援を行っている。	医療的配慮から、利用者の健康を最優先にし、中庭の池や畑の周辺、デッキでの外気浴をすることも多い。季節の外出行事としては、道の駅、長滝、鮎パークなどを巡る遠足も行っている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、苑で管理をしている。必要な場合は職員が同行し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯や事務所の電話など、その人に合った形で自由に電話を使っていたがいてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節を感じさせられる手作りの作品づくりなど飾っている。季節が変わるころには作品を飾り替えて、雰囲気作りを心がけている。	大きな窓、窓に続く木製のデッキ、その先に広々とした庭園が広がっている。八重咲きのバラが玄関に活けられ、壁面には「これから音頭」の歌詞や、花火を描いたちぎり絵、短冊の川柳等が貼られ、利用者の活動内容や季節感が伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にテラスや好みの場所に座れる場所があり、気の合う方同士がお話をされたり、思い思いの空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的に使い慣れた小物や装飾品はできるだけ持ってきていただき、和みの生活が閉ざされないようにしている。	利用者がこれまで使っていた馴染みの品や装飾品等を持ち込み、その人好みに配置されている。その人らしさを表現した居室空間になるように、職員と一緒に作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべくできることは自分で生活していただくために、建物内部には手すりをつけたり、トイレの表示など利用者様が混乱して不安にならないように工夫している。		